

薬用作物産地支援 栽培技術研修 九州会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： 大分県中小企業会館（大分県大分市金池町3-1-64） 中会議室

実施時期： 10月27日(水)～28日(木)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月27日(水)	13:00-13:30 (30分)	12:50現地集合 場所：杵築駅前（JR九州日豊本線） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30-15:10 (100分)	[現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	杵築市（東京生薬協会との薬用作物栽培に関する連携協定締結）の圃場における現地研修で、収穫間近の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	山上 勉 藤原 陽一郎	公益社団法人東京生薬協会 薬用植物栽培指導員 杵築市農林水産課 課長補佐
	15:10-16:10 (60分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:30-17:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと国内栽培に向けて	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	花岡 信義	日本漢方生薬製剤協会 生薬国内生産検討班
10月28日(木)	9:00-10:30 (90分)	[講義] 薬用作物の栽培法と調製法について	ミシマサイコの栽培法及びミシマサイコ、トウキ、シャクヤクの調製法について、実際の生薬サンプルを示しながら解説する。	飯田 修	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター 客員研究員
	10:40-12:10 (90分)	[講義] 薬用作物産地化の必要性と各薬用植物の栽培方法について	薬用作物の産地化方法について、成功・失敗事例を踏まえて解説する。	渥美 聡孝	九州保健福祉大学 薬学部 薬学科 講師
	12:10-13:10	昼休み			
	13:10-14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	